

天 恍 星

この星は人生にたとえるなら青少年の時代です。人間は、この時代にこそ人生観を形成し、それがそれ以後の人生を支配すると云っても過言ではないでしょう。

この時代に入れば、人間は大なり小なり社会と自分自身との接点を探し求めようとするのです。ときには社会への反抗を試みたり、両親に対して反発心をおこしたり、それでうて何らかを学び取り環境との和合を計ろうするのです。まさに「模索」によって現される迷いの多い星世界なのです。

また青少年時代特有の「夢」「ロマン」「恋」「非常識」などの意味合いがありますが、天恍星にはたんに青少年とのみ考えないで、人間の「巣立ち」の時としています。それは同時に生地生家を離れる星ともされています。

精神的な試練は他のどの星よりも大きく、また孤独を暗示されている星でもあります。

さみしがりやの性情を常に明るさときらびやかさでかくしているのです。

そのことが「暗中の明」をつくりだし、人をたのしませたり、人に明るさをもたらす星でもあるのです。

自意識は相当に強く、小なりといえども大に屈しない気風をもっています。

夢とロマンに支えられ流浪の旅を続ける星世界なのです。

■初年運(人体星図の肩のところに割り出された星で、この位置を算命術では「初元」の場所と言っています。)

生れてから成人に達するまでの初年運をみます。主として子供の頃に現れる性格や希望が現われますが、この星は青年になる迄のものの考え方や性格づけが發揮されるとともに、本人一生の性格として持ち続けられる星でもあるのです。三つ子の魂、百まで…のたとえで子供のころの性格は大人になっても消るものではありません。

成人するまでに、生地・生家から離れる……宿命のレールにのっています。宿命に逆らわず歩むことで成長しますがいろいろな事情から生地・生家を離れられずに過ごしますと、不満に満ちた初年運になってしまいますし、それが、中年、晩年にまで悪影響を及ぼすことになります。若い内に生地・生家から巣立つと、苦労も多いでしょうが、それだけ人間的にも成長して素質は大いに伸びていき、公私共に活動の場も拡がりをみせます。

■中年運(人体星図の左足の位置に割り出された星で、この位置を算命術では「中元」の場所と言っています。)

青年期から壮年期にかけての運勢を算定します。人生のアイデンティティ(役目意識)はここに算出された星から生れます。また職業意識や社会観なども、この星から生まれると云っても過言ではないでしょう。

放浪の中年期という暗示があります。この「放浪」の意味は、仕事を捨てるとか、家族を捨て、自由勝手気ままに行動すると言う意味ではありません。仕事に追われて自分の時間さえ持てないとか、家庭に縛られて自由がない中年運……というのではなく、たとえば、海外赴任、海外旅行などで長期滞在をするといった開放型な中年期と解するべきでしょう。天恍星には、「夢」「ロマン」「恋」「非常識」などの意味合いがあり、明るさときらびやかさの中に孤独を隠しもつ特質がありますだけに、家庭をもっている方は異性関係のトラブルには気をつけてください。

■晩年運(人体星図の右足の位置に割り出された星です。)

晩年期の運勢を算定します。人生の究極においてどのような人間性と悟りが持てるかをこの星で量ります。算命術では、この位置を「本元」とも言いますが、それは人生を生き抜いて来た社会に対する役目や価値を見つけ出す大切な場所という意味からです。

優雅な老年期という暗示があります。算命学では天恍星に「無冠の太夫」という呼び名がありますが、これは名誉とか名声にこだわらず、精神的な満足感を追い求めると言う意味があるのです。

高齢になっても若さを失うことなく、気力に満ちた老後の生活をおくります。

●人体星図に天報星が二つ以上出ている人は、男女とも宿命的に異性関係でのトラブルに関わりやすく、恋愛問題の場合ですと、その影響は一生つきまとうことになりかねません。

とくに女性の場合は、常識的な結婚よりも、(たとえば、年令がひと回り以上も離れた人とか、国際結婚のように言語・文化・宗教など)環境が大きく異なる人と的人生を伴にする道を選んだ方がうまくいきます。

